

# ビジネス創出人材育成コンテスト IoTイノベーションチャレンジ2020

IoTイノベーションチャレンジ実行委員会

IoT Innovation  
Challenge 2020

今年で3回目を迎えるIoTイノベーションチャレンジで参加チームとスポンサーを募集しています。IoTイノベーションチャレンジは、JASAが主催する、これからの組込み業界を牽引できる人材の発掘・育成を目的としたアイデアソンです。

企業・団体・教育機関から参加チームを募り、いま産業界や社会に解決を求められている喫緊の課題「SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)」が掲げる17のゴールから課題を抽出し、IoTを活用したソリューションを企画します。グループディスカッションなどを通して、ビジネスをデザインする能力と組込みシステム全体を俯瞰して捉えるセンスを養ってもらいます。

IoTイノベーションチャレンジの特徴の一つは、第一線の専門家による充実したセミナー・ワークショップです。参加者の通常の業務だけでは得られにくい、ビジネス、イノベーション、IoT要素技術、アーキテクチャといった、ビジネスの企画・検討に必要な内容に関する広範囲の教育を、6日にわたって受講することができます。

## 2019年の結果報告

2019年のIoTイノベーションチャレンジには41チームが参加しました。一流講師陣

による6日間19コマのセミナー/ワークショップ、ベンチャー企業経営者によるトークセッション、相談会、書類審査、プレゼンテーション審査を経て、7チームが11月の決勝審査に進出しました。

決勝審査はEmbedded Technology 2019・IoT Technology 2019展のメインステージです。5分間の熱気あふれるプレゼンテーションと、審査員との質疑応答が繰り返され、ダイキン情報システム(株)とダイキン工業(株)のチーム創発が優勝、(株)エクスマーションのChelsyが準優勝、(株)ピッツ東北事業所のSparrowが第3位、そして(株)シーエーシーの[ΣCAC]が特別賞をそれぞれ受賞しました。

## 2020年の新企画

昨年までのIoTイノベーションチャレンジでは、多くのチームが「課題設定」の難しさを挙げていました。この声に応えるべく、NPO法人人間中心設計推進機構による新たなワークショップ“開発チームのみんな!「街に出よう!””を開催します。実際に利用現場を観ることで、課題の発見やソリューションの創発につなげる手法を学びます。

チーム・ビルディング・ワークショップも拡充します。チームメンテナンスツール「Monica」を使ったセッションと、レゴ シリ

アスプレイ組織論の3つのセッションを行います。

IoTイノベーションチャレンジには新しいビジネスを考える技術者が集まります。ビジネスのデザインのヒントが数多くあります。企業にとって宝の山です。ぜひ、参加をご検討ください。

またIoTイノベーションチャレンジはスポンサーの皆さまに支えられたコンテストです。スポンサーにはセミナーの受講資格などの特典があります。多くの企業にスポンサーとして手を挙げていただきたいと思えます。特典に応じてダイヤモンドスポンサー、プラチナスポンサー、パールスポンサー、エンジェルスポンサー、プライズスポンサーと5つの枠をご用意しております。

● 詳細資料は、こちらをご覧ください。

[iot-innovation-challenge.net](http://iot-innovation-challenge.net)

1月28日、CES2020報告会を開催しました。これまで3年連続でCESを見てきて、その変遷とこれからの方向性のようなものをお話しました。今年にはソニー、トヨタ自動車からクルマ関係の目新しい発表がありましたが、他に斬新な発表がなかったため、相対的に目立っていると理解したほうが良いでしょう。どちらも自社製品をユーザ視点で使ったらどうなるか確認してみたい、という思いは共通です。

2年前は目新しい技術が目白押しで感激しました。故に若い人にも見てほしいと、ETロボコン ガレージニア部門 最優秀チームにもCESに参加いただきましたが、去年はそれがだんだん当たり前になっていき、今年はずでに限定的にサービスイン、もしくは提供中となり、目立つも



## ETロボコン2020に参加しませんか

ETロボコン実行委員会

### 競技内容：クラス構成

エンジニアの学び場  
～ホップ、ステップ、ジャンプで未来にはたけ！



ETロボコン2020 開催発表会資料 / ETロボコン実行委員会

41

AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)などの新しい技術への注目度が増えています。世の中の変化のスピードが速い時代をどうやって渡り合うか、『これまで通りの開発手法や、モデルを書くだけでいいのか』とETロボコンは自問自答を繰り返し、早いもので19年目を迎えました。2020年の新しい取り組みとして、プログラムやモデリング未経験者向けに「エントリークラス」を新設。組込みエンジニアはもちろん、エンジニア以外の職種や他業界からも積極的に参加してもらい具体的な題材を体験する「学ぶ場」を提供し、体験しながら学ぶ価値を感じてもらうためです。従来から存在する「モデルを使うことで品質を良くする場」を体験できるプライマリークラス、「課題をモデルにて攻略し、AIによる画像認識の新しい技術を使う場」を体験できるアドバンストクラス、初心者からベテランまで幅広い層がそれぞれのレベル

に合わせて体験できる「場」で、相互に刺激しながらやりがいと成長を実感し、組織と共に自分も成長することができるのがETロボコン最大の見どころ、今こそ「人材育成と組織の醸成」に大きく舵を切る決断をしませんか？

※ETロボコンとは、一般的なロボットコンテストと異なり「ソフトウェア重視の教育コンテンツ」である点が特徴で、共通のロボットによるコース走行のタイム成績に加え、高品質な組込み開発に欠かせない設計技法(モデリング)も評価対象となる。2019年には組込みエンジニアへの教育効果が評価され、社会の情報化促進に貢献した団体に与えられる令和元年度「情報化促進貢献個人等表彰」経済産業大臣賞を受賞した。

## CES2020報告会

ETロボコン共同企画委員長 江口 亨



のが少なくなった気がします。AIや5Gのようなバズワードを全面に出す展示は影を潜めました。代わりに、これまで規模が小さかったHealth/Wellnessに関する出展が目立ってきて、単に体を動かしてト

レーニングを数値化するだけでなく、ゲーム性を持たせて楽しく運動するマシンが登場。また、IoTの単語はSmart Homeに差し替わり、技術ではなく目的を目指す言葉に交代しています。

トランプ大統領の影響か、中国からの出展パワーが幾分落ちました。話題のHUAWEIは大人しくTCLも控え気味。代わってLG、Samsungの曲がる・大型高精細ディスプレイが幅を利かせています。ですから中国勢の本気を見に、6月に上海で開催されるCES Asiaに行く段取りをつけましたが、この新型コロナウイルス騒ぎで開催されるのか、開催されたとしても日本から入国できるのか、今から心配しているところです。



ソニーの試作車VISION-S



スキー大回転風のトレーニングマシン